

# \* よどじん \*

閉店後の店内に、マネキンと向き合う若い美容師がひとり。  
カットもエステも全部できるようになりたい。  
ヘアカラーで汚れた指が積み重ねた努力の証。  
すべては、幼いころに鏡の中に見つけた夢を叶えるため—

今月のよどじんは、

西三国3丁目 パシパラ マカロン  
(サンティフルみくに)

## 「夢見るJr.スタイリスト」

やまもと ひろみ  
山本広美さん(23才)



# お客さんのキレイを 一生懸命お手伝いしたい

広美さん愛用の  
シザーケース



### 鏡の中に見つけた夢

子どもの頃、鏡越しに見たその姿に心奪われた。広美さんが美容師をめざし始めたのは小学5年生のとき。特別おしゃれに関心があったわけではないが、カットしてくれた美容師の姿に「かっこいい!私もあんな風になりたい!」と強く心をひきつけられた。それからは美容師一筋。「友達とも美容師ごっこをして遊びました。間違っただ友達の髪を切って泣かせてしまったこともあります(笑)」。

専門学校で技術を学び、国家試験に合格。いよいよ就職先を決めるときがきた。どこにしようかと迷っていたときに見つけたのが『パシパラ・マカロン』(2年前に現在の場所に移転)。外観やお店の雰

囲気など広美さんの理想そのものだった。『ここしかない!』心に決めた。

### このままじゃダメだ!

夢を叶え、念願の美容師に。しかし何度も壁にぶつかった。もともと人見知りする性格の広美さん。うまくお客さんと会話ができない。先輩とは楽しそうに話しているお客さんが、自分が担当すると黙り込む。『このままじゃダメだ。変わらないと!』それからは先輩にアドバイスをもらいながら、場数を重ね、今ではお客さんとの会話が楽しめるようになった。

### 緊張のカットデビュー

店長が設定する課題をクリアするまでは、アシスタント兼Jr.スタイリストとして店頭立つ。就職して3年、ようやく指名があればカットも任されるようになった。「初めてお客さまのカットを担当したときは手が震えました。少しわくわくする気持ちもありましたが、不安のほうが大きかったです」。

### お客さんは大切な存在

商店街という立地もあり、このお店には長年の常連客が多い。勤め始めた頃から広美さんを応援しているお客さんが「がんばってるね」「うまくなったやん」と声をかけてくれる。「お客さんは私を成長させてくれる大切な存在です。いいことも悪いこともちゃんとしてくれるので、それをしっかり受け入れて成長していきたい」と広美さんは話す。

### どんなキレイも私におまかせ

正式なスタイリストになって、いつか自分の店を持つことが広美さんの夢。「美容師なら、カットやパーマはできて当たり前。でもエステやボディケアまでできる人は少ないので、そんな美容師になりたい。お客さんのキレイを一生懸命お手伝いしたいです」と瞳を輝かせる。

小学生の頃に抱いた夢を、まっすぐまっすぐ追いかけて続ける。

いかがでしたか? 今回の「よどじん」。よどじんコーナーでは、静かに流れる人々の暮らし、何気ない風景、そして人の心に光をあて、みなさまの元にお届けします。

めざせスタイリストデビュー! レッスンにも力が入ります。

